

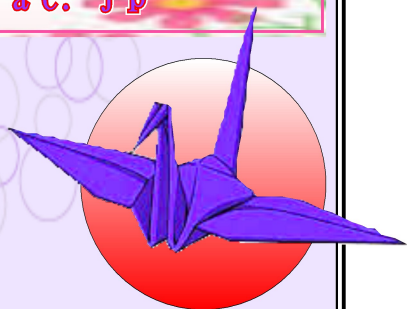


Koryo 陵

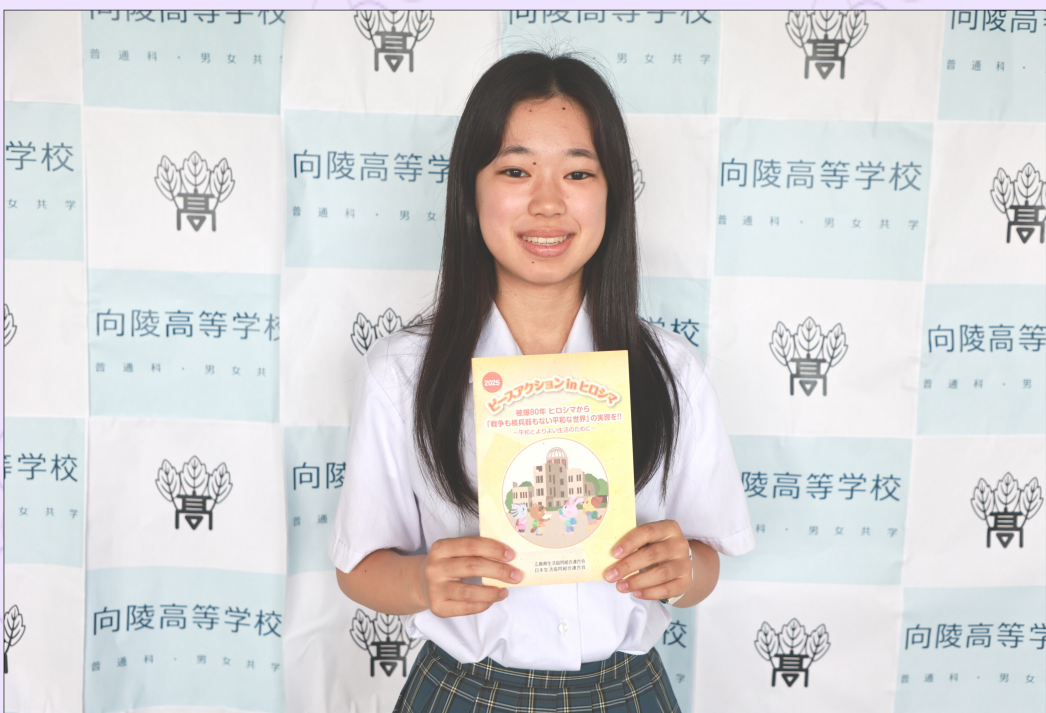
雲 High school

〒031-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号／電話 0178-44-3866／FAX 0178-43-9077
https://kouryo-high-school.com./メール kouryo@chibagakuen.ac.jp

被爆・戦後80年 ～平和とよりよい生活のために～



私が見た広島 教科書で学ぶことができない体験



8月4日(月)～8月6日(水)、2泊3日の日程で「ピースアクションinヒロシマ」に3年生の柄本百絵さん(第三中学校出身)が参加した。この企画は、広島県生活協同組合連合会と日本生活協同組合連合会が共催し、戦争・被爆体験の継承や世界のさまざまな紛争などを取り上げ、平和を考える取り組みなどを行っている。青森県からは、柄本さんを含む3名が参加。今年のテーマ「戦争も核兵器もない平和な世界の実現」に沿って平和活動に取り組む若者たちと意見交換、被爆を語り継ぐ活動が続ける人の講演などが行われた。柄本さんは、現地で見聞した「被爆の証言」、「原爆の惨禍」などについて、自身の想いを語る報告会(オンラインやイベントにて)に出席する予定。

報告会
10月19日(日) 14時～21時※詳細は未定
八戸ポータルミュージアムはっち
「平和のつどい・被爆ピアノリレーコンサート」

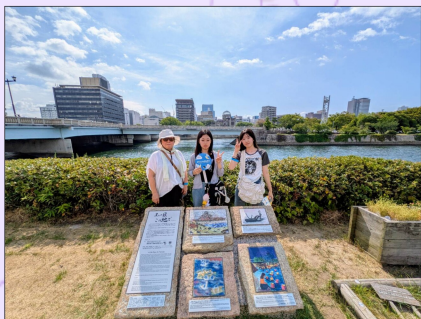


《初めて広島を訪れて》

1日目 8月4日(月)

【被爆者の証言】を聞いて
私は、被爆2世の方から父親の被爆体験を聞き、被爆しながらも御両親と再会したという話に感動しました。同時に、親友とは被爆地の違いで生死が分かれ「一人は死に、一人は生き残った」と語った言葉が頭に残っています。原爆をめぐってはさまざまな考えがありますが、まずは、相手の話を聞き、相手を理解できなくともまるごと「寛容する、そして話し合いの席に着く」ということが大切だとおっしゃっていました。本心にその通りだと思います。「みんな、大切なひとり」ということ、「命の重さに違いはない」ということを伝えたかったのだと思います。

【被爆80年の広島で考えるグローバルヒバクシャ】を聞いて
私はこれまで、被爆したのは広島と長崎だけで、日本が初めての被爆国だと思っていました。しかし、原子爆弾を製造し、実験する過程での被爆者がいる事実を聞きました。原爆を作るためにウランを発掘し、そこで被爆した人がいたこと、原爆の威力を試すために島を二つずつ犠牲にしたこと、そのことによって島の住民、船員が被爆したことを初めて知りました。戦争が起ると、より強い武器を作るために原子爆弾の開発が行われたのではないかと思えます。世界では67回の核実験が行われ、被害の概要はまだ全て把握されていないそうです。



▲一緒に参加した方々と

2日目 8月5日(火)

【映画「お母さんの被爆ピアノ」観賞】
【虹のひろば】に参加



胎内被爆者だという方のお話を聞きました。その方は、世界最年少の被爆者だということに驚きました。被爆者の平均年齢は上がっており、被爆者として証言することを制限されていたことにも驚きを隠せませんでした。「No more Nagasaki No more Hiroshima」と抗議している部分の映像が印象に残っています。そして、今の高校生が被爆者と協力して証言の絵を33点も描いていることを初めて知りました。避難をしていたり、きょうだいを助けたりと、あの日の時の時間を絵に残し、それぞれの絵に一つ一つストーリーがありました。私が特に印象に残ったのは5年後の広島に絵を描く。焼け野原になった場所を見て、私なら復興は難しいと考えてしまいましたが、古く電車で新しい電車が描かれたその絵には、被爆地で暮らす高校生たちの熱意を感じました。被爆者たちが高齢化している現在、広島で生きる高校生たちが「聴いて伝える」、「絵で伝える」ことに並々ならぬ想いを持っていることを肌で感じることができました。



今回の広島訪問で、「行く前は、被爆地との認識で、『原爆反対』『核反対』という想いを発信しているイメージが強かったが、それ以上に『平和への想い』を強く感じた」と柄本さんは話す。学校設定教科「人間学」で考えた平和、昨年の沖縄修学旅行で訪れたひめゆりの塔で広げられた様子。また、被爆国の一人として知らないことが多かったと語ってくれた。まだまだ知らない話があり、それを伝えるために活動している広島の高中生たちにも刺激を受けたようだ。柄本さんが見た「広島」を、彼女の言葉で多くの人々に伝えていってほしいと思う。

誰もが大切なひとりであり、全ての人の命の重さは同じ

【平和記念資料館】見学

最初に感じたのは、外国人が多いということでした。原爆ドームの被爆の前後の写真が並んでいるのを見て心が痛みました。一瞬で消えた広島町の、言葉が出ませんでした。被爆者でなくても、今を生きている世界中の人々は、原爆の悲惨さを語り伝えていかなくてはならないと思いました。私も、被爆地に生まれていなくても、被爆国の一人として、広島を訪れた一人として。



▲原爆ドーム

3日目 8月6日(水)

【平和記念式典】に参加

遠くから出席しました。当たり前ですが、綺麗に整備されたこの場所が、原爆の落ちた場所なのかと疑うような不思議な感覚でした。その場所、原爆投下時間の8時15分に黙祷しました。しかし、私が平和記念式典に出席している最中でも世界のどこかで戦争が行われているのが現実です。一日目にお話を聞いた方のお父様は、「核抑止力で自国の平和や安全が保たれている」「核兵器が存在している以上、核の傘にいる方が安全」(消極的な核抑止)と、被爆当事者でも複雑な想いを持っていらしたそうです。でも、確実に言えるのは「失われていい命なんてない」ということです。そして「平和」とは何かを考え続けなければならぬと思います。



▲平和記念公園で行われた式典



▲柄本さんのバインレット。どのページもびっしりと書かれたメモで埋め尽くされている。

三社大祭

八戸三社大祭の5日間、太鼓部のメンバーらが淀山車組のお囃子に参加した。太鼓部コーチの大柳さん(創作太鼓響代表)が責任者を務める同組のお囃子に参加するのは今年で3回目となる。1年生は笛の音を出すのに苦労したという。「安定した音を出す域まで到達していないかもしれないが、お祭りに参加し、地元を盛り上げる一役を担うことができたのではないかと振り返るのは部長の籠田博彬さん。(3年・第一中学校出身)自身がそうだったように、後輩には場数を踏んで一回り成長してほしいと話していた。



ボランティア活動

【7月26日(土)リレー・フォー・ジャパン 2025八戸】

1年 丹野 周杜(第二中学校出身)
地域が一丸となってガンを強い社会をつくるための運動「リレー・フォー・ジャパン」のボランティアに参加してきました。私は、皆さんの手形

が押された横断幕を掲示するための支援を作ったりました。今年の5月にボランティア活動に初めて参加しましたが、その時の達成感があってから今回もやってみようと思いました。すべてのことが初めて大変な面もたくさんありますが、それ以上に、得るものが多いと感じています。いろいろな年齢の人、地域の人と関わることで自分の視野も広がります。これからも多くの活動に参加していきたいです。

【8月1日(金)〜4日(月)おまつり広場】

1年 石田 光(根城中学校出身)

ボランティア活動に参加するのは初めてでした。広場の「お化け屋敷」の中で、お化けを担当しました。他校の人と交流できましたし、お客様の反応を見て、ボランティアをしている自分も楽しむことができました。やったことがないことに挑戦し、いい経験になりました。

1年 山田 倅雅(明治中学校出身)

私は、水風船を膨らませたり緑日の手伝いをしました。作業に手こずったところもありましたが、作業全般が楽しかったです。休み中、時間を持て余すと思って参加した初ボランティアでしたが、充実した時間を過ごすことができました。また、やろうと思います。

【8月16日(土)〜17日(日)八戸花火大会】

1年 森山 琉(東中学校出身)

私は、観客席のフェンスの設置を手伝いました。暑かったですが、皆と協力して作業することができました。多くの観客が花火を楽しんでいるのを見聞きすると、こちらも嬉しかったです。

フラダンス愛好会始動

8月29日(金)、上井慎子先生を講師に迎え、フラダンス愛好会がスタート。フラダンスの経験が8年ほどあるという小出歩実さん(1年・白銀中学校出身)は、「3年くらいフラダンスがありました。愛好会として高校でもやれる機会ができて嬉しかったです」と話してくれた。以前は種差などで行われたイベントにも参加していたという小出さんは、人数が増えて皆でイベントに参加できれば」と意欲を見せる。フラダンスは、優雅で穏やかな動きながらも全身運動になり、リラックス効果が高いのが特徴。幅広い年齢層が楽しみながら、心と体を健康的に整えることができる。



三社大祭

徒打毬



八戸三社大祭中日の8月2日(土)、加賀美流騎馬打毬の試合の合間に行われる競技「徒打毬」に8名が参加。向陵生が徒打毬に参加し始めたのは1992年からで、コロナの影響で中止もあったが30年以上続いている。本校卒業生が会長を務める八戸徒打毬会のメンバーらが指導してくれている。今年は猛暑が続き、木々に囲まれた境内でもしのげない暑さに見舞われたため、限られた時間で練習を重ねてきた。本番は県内外からの観光客が詰めかけ、さらに今年は外国人が多かった。また、練習中の生徒たちの様子を見守り、声を掛けて下さる方々も多数いらっしゃった。今年は、4人ずつでの戦いのため、4点を先取したチームが勝ちで、仲良く1勝となった。残り1勝となると妨害が可能となり、その攻防に観客も盛り上がりを見せた。4点を決めた経験者の王原鋭強さん(2年・下長中学校出身)が得点王となった。初参加の島守史恩さん(1年・大館中学校出身)は、「練習の成果を出すことができました。得点も2点取ることができ、見に来ていた家族が『頑張ったね』と言ってくれました。反省点として一つ一つの行動が遅いところがあったので、来年はできれば速く動きたいです」と次年度に意欲を見せた。

《紅組》

櫛引 煌星(1年・大館中学校出身)
青池 結心(2年・下長中学校出身)
坂本 響亮(2年・北稜中学校出身)
坂本 瀬帆(2年・湊中学校出身)

《白組》

島守 史恩(1年・大館中学校出身)
中村 風紗(1年・根城中学校出身)
王原 鋭強(2年・下長中学校出身)
宮田 俊輔(2年・北稜中学校出身)

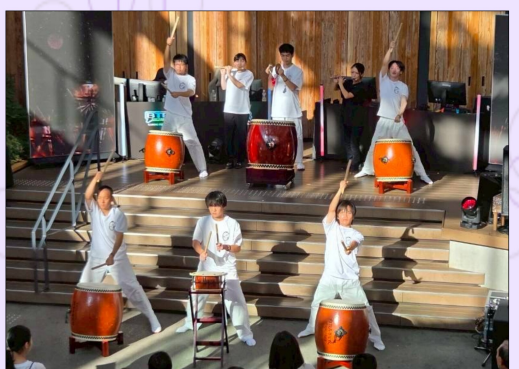


学校対抗戦 優勝



8月30日(土)、八戸まちなか広場マチニワにおいて

「BEYOND THE REGION FESTIVAL Lv.5」略して「BR Lv.5」(電音エンジニアリング主催)が開催され、本校太鼓部がリアル太鼓の達人としてステージパフォーマンスを行った。また、



8月31日(日)、BPR杯野田ゲ学校対抗戦(参加チーム4校)が行われ、2年生の伊東茜音さん(是川中学校出身)、小泉一花さん(大館中学校出身)、松田和花さん(洋野町立種市中学校出身)が参加し、見事優勝した。出場にあたって「野田ゲの存在は知っていましたが、やったことはなかったので前日にゲームをダウンロードして練習しました」と話すのは松田さん。伊東さんは「初めてのゲームだったので、対策を練る暇もなくあっという間に終わったという感じです」と話した。「野田ゲは技術と面白さが必要です。他のチームに比べたら技術力は劣るので、自分たちは、とにかく楽しんでやりました」と笑顔を見せたのは小泉さん。いつもゲームをしているというわけではない3人の「大会を楽しむ」という素直な気持ちが優勝に繋がったに違いない。

BTRYイベント